



# 風は海から

## ゆっくり丁寧に

横浜市立西富岡小学校

校長 武士 雅子

若葉がやさしい光を受けて輝き、朝の空気にも新緑のすがすがしさを感じるようになりました。学校内を巡回しながら子どもたちの表情を見ていると、新しい学年、新しい学級での生活に少しずつ慣れ、それぞれが自分の居場所を見つけながら過ごしていることが伝わってきます。

先日、6年生の国会議事堂見学に同行しました。朝早い時間からの出発でしたが、集合の仕方や移動中の様子は大変落ち着いており、公共の場でのマナーを意識して行動する姿や真剣な表情で見学する姿に、成長を強く感じました。また、テレビや教科書で見てきた場所を、実際に自分の目で見て、肌で感じる経験は、子どもたちの心にしっかりと残ったことと思います。

この見学で学んだことは、社会科の学習としてだけでなく、これからの学校生活の中でも、きっと生きてくることなのでしょう。人の話を最後まで聞くこと、ルールを守ること、周囲の人のことを考えて行動すること。そうした当たり前のようで大切なことを、6年生は自分たちの姿で示してくれました。今回の経験を、これからの学びや日々の生活の中で生かし、学校の最上級生として、やさしく頼もしい存在でいてくれることを心から期待しています。

1年生から5年生の子どもたちも、それぞれの学年らしい成長を見せてくれています。1年生は、毎日一生懸命に学校での生活を覚え、できることが少しずつ増えています。2年生、3年生は、友達との関わりを広げながら、学習や活動に前向きに取り組んでいます。4年生、5年生は、自分で考え、行動しようとする意識が育ってきています。



一方、5月は、子どもたちの心が少し揺れ動く時期でもあります。新しい環境に慣れ、緊張がほぐれてくるのと同時に、知らず知らずのうちに疲れがたまったり、思うようにいかない気持ちを抱えたりすることもあります。いつもより元気がなかったり、気持ちを言葉にするのが難しかったりする姿が見られるのも、この時期ならではの姿です。

だからこそ、私たちは子どもたちの小さな変化に丁寧に目を向け、安心して過ごせる声かけや関わりを大切にしていきたいと考えています。「がんばっているね」「そのまま大丈夫だよ」という一言が、子どもたちの心をそっと支えることもあります。学校は、できること増やすだけでなく、失敗したり迷ったりしても受け止める場所でありたいと思います。5月のこの時期が、子どもたちにとって、自分の気持ちを大事にしながら、安心して毎日を積み重ねていける時間になるよう、職員一同、温かく見守り、支えたいと考えています。

だからこそ、私たちは子どもたちの小さな変化に丁寧に目を向け、安心して過ごせる声かけや関わりを大切にしていきたいと考えています。「がんばっているね」「そのまま大丈夫だよ」という一言が、子どもたちの心をそっと支えることもあります。学校は、できること増やすだけでなく、失敗したり迷ったりしても受け止める場所でありたいと思います。5月のこの時期が、子どもたちにとって、自分の気持ちを大事にしながら、安心して毎日を積み重ねていける時間になるよう、職員一同、温かく見守り、支えたいと考えています。